

学校経営の方針

令和6年度の教育目標

「すすんで学ぶ子 思いやりのある子 丈夫でがんばる子」

目指す子どもの姿 ふるさと大浦を愛し 未来を切り拓く子ども

学校スローガン

笑顔とあいさつがあふれる学校

～様々な活動にわくわくし のびのびと取り組み きらきらと輝く大浦の子～

(1) こんな大浦小学校に

子どもたちが、笑顔で、生き生きと日々の学校生活を過ごし、のびのびと成長していく。子どもだけでなく、保護者、地域の方々、職員全てが願う学校の姿である。「笑顔とあいさつがあふれる学校」にしたい。目指す子どもの姿「ふるさと大浦を愛し 未来を切り拓く子ども」のもと「笑顔とあいさつがあふれる学校」をキャッチフレーズに、様々な活動にわくわくし、のびのびと取り組み、きらきらと輝く大浦っ子を育てていきたい。

わくわく…机上の学習にとどまらず、外に飛び出したり、様々な人と関わったりと、多様な学習形態で学ぶ機会を意図的に取り入れる。そのことで、主体的に学習に取り組む姿を目指す。

のびのび…互いの存在を認め合い、安心できる学習環境を整え、関わり合いが生まれる活動を設定することで、安心できる学習環境で、進んで学習に取り組む姿を目指す。

きらきら…自分の考えを進んで発表したり、友だちと協力してやり遂げたりする活動を取り入れることで、進んで表現し、自らを高めようとする姿を目指す。(自己決定の場・自己有用感の醸成)

子どもたちが、きらきらと輝き、のびのびと取り組み、さまざまな活動にわくわくするとき、笑顔あふれる学校となる。一人ひとりの子どもの笑顔は個性の表れであり、違った色で輝いている。それぞれの色が輝くとき、保護者や地域の方の笑顔につながり、そこに信頼関係が生まれる。そんな一人ひとりの笑顔を目指して、教職員も一丸となって職務に専念できる学校でありたい。

(2) 子どもたちの実態から

明るく素直で真面目で、仕事も熱心に取り組む児童が多い。異学年や男女のかかわりについても違和感がなく、誰とでも接することができる。普段の授業等で発表の機会が多く、自分の意見や考えを堂々と言える児童が多い。一方で基礎的な学力については、全国平均よりやや下回っている。基礎学力と思考・判断力の向上が課題である。体力については、全体的に積極的に体を動かす児童が多い。

生活習慣の乱れは個人差があるものの、全体としてゲームを含む情報通信メディアの利用率及び利用時間の増加傾向が見られる。また、家庭学習や就寝時刻についても、「いきいきパワーアップ週間」等の期間中では比較的守られているが、取組が終わると崩れる傾向も見受けられる。家庭と連携し、自主的に生活習慣を見直し、正していこうとする児童の育成が求められる。

個別な配慮を要する児童への支援は、校内体制を整え組織的に取り組むこと。児童や保護者の思いを受け止め、支援の方法や役割分担について共通理解を図ること。関係機関との連携を構築することが求められる。他者とのかかわりの中で確かな自立に向けた手だてを講じていく必要がある。

(3) 地域とのかかわりやこれからの社会の中で

大浦地区は大浦コミュニティや大浦共和会を拠点として、様々な行事の開催等、地域の協力体制が確立されている。五十嵐川漁協や地域おこし協力隊など、子どもたちの学習活動を支援する関係団体からも多数の協力を得ている。さらに、PTAの奉仕活動等は全員参加を基本としている。

このように、学校文化の伝統維持と存続に地域をあげて取り組んできた。まさに「地域の子どもは地域で育てる」を実現している。そのような地域とのかかわりに積極的に働きかけていくことで、地域への愛着を育むことができる。さらに、地域の財産、支援体制を得るだけでなく、学校からも地域への貢献や協力、また発信をしていくことで双方の結びつきを強めていく。

(4) こんな職員集団に

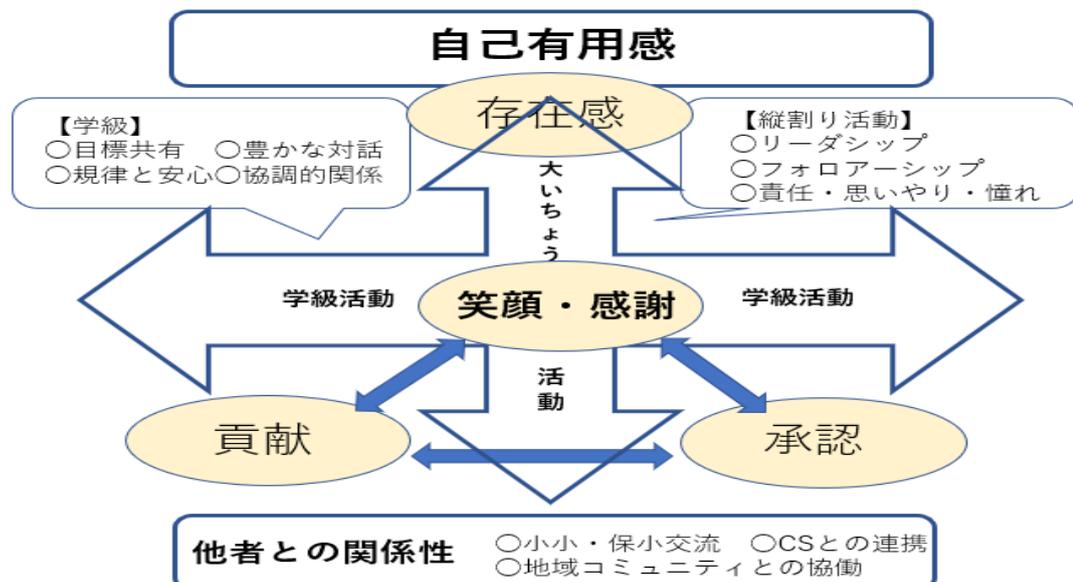
- 児童の笑顔を中心に考える。(子どもの充実感、達成感が得られるよう最大の努力をする)
- 教師の笑顔が児童の笑顔を引き出すことを忘れない。
- 常に改善・向上を目指す職員集団に

大浦小の教育活動をより効果的に推進していくためには、教職員一人ひとりの力を結集していく必要がある。それぞれが与えられた職務や分掌の中で、より効果的で効率的な試みの提案を期待する。特に、全職員で取り組む「こころ」「まなび」「からだ」のプロジェクトが互いに機能し、全職員の共通理解をもって実践できるようにしていきたい。年間を通してPDCAを確実に意識した取組を推進していく(「現状分析」や「現状把握」を行い、明確な目標を設定する。目標に向けて綿密な計画(短期・長期)を立て実践する。数値的指標を基準とするなど具体的な検証作業を行う。課題を明らかにし、改善に向けた行動を試す。)

また、働き方改革が叫ばれている中、より効率的に質の高い教育を提供することが求められている。チームとして職員相互の協働体制を確立し、積極的に声かけができる同僚性を大切にしたい。あわせて、日々の言動が学校の信頼を高めることを自覚し、保護者・地域の方々の信頼を子どもの姿を通して獲得できる職員集団でありたい。

(5) 学校スローガン「笑顔とあいさつがあふれる学校」のイメージ

笑顔やあいさつがあふれる学校を目指すためには、唯一無二の存在である児童の自尊感情・自己有用感を高めることが必要である。そのためには、小規模校のメリットを活かし横軸の学級と縦軸の大いちょう活動の両軸からアプローチしていく。安心できる環境のもと活動の目標に向かって、豊かな対話を通して協調的な関係を創り出そうとする力を育むことが大切である。



(6) 今、学校に求められていること

- ◆合理的配慮を提供できる学校支援体制の確立
 - 特別支援コーディネーターを中心に、全教職員でかかわる、育てる体制づくり
 - 校内特別支援教育委員会の活用
 - 通常学級における合理的配慮が必要な児童への対応（複数で確認⇒対象児童の決定⇒保護者面談（支援計画の作成）⇒職員情報共有⇒支援⇒改善・見直し）
 - 障がい理解教育の推進（保護者・教職員・児童）
- ◆自己有用感を育む生徒指導の充実
 - 行事や活動のねらいを意識し、めあてや振り返りを行い、他から認められる場の設定
 - 「心の作文ノート」を活用し、自身の成長を蓄積していくと同時に適切に支援や称賛を与えることにより、自己有用感の醸成につなげる。
 - 不登校の未然防止への取組（小中、専門機関、家庭や地域との連携、SC や相談機関の活用）
 - 児童理解、組織的な体制作りに向けた職員研修の充実（児童理解の会、ミニ語る会、外部講師の招聘）
- ◆支持的風土を生み出し協調的な関係を創り出そうとする力を育む学級づくり（学級力の活用）
 - 児童主体の学級経営・全校体制
 - 児童主体の計画・活動が学級力向上に結びついているかを評価させ活動のマンネリを防ぐ。
 - 協調的な関係を生み出すための集団活動の設定と普段の授業への活用
- ◆「見える化」に焦点を当てた学級経営の充実
 - 学級のめあてや達成状況、学習の足跡や児童の自主的な取組等の掲示を工夫するなどし、充実感を味わわせるための教室環境を整える。
 - 前面黒板周りはすっきりさせるなどユニバーサルデザインの視点による教室環境づくり
- ◆GIGA スクールの推進
 - 「多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育・ICT 環境を実現する」ために
 - 子どもたち一人ひとりが、“端末を文房具のように使用する”ことを前提とした授業構築へ
 - 意見の共有や協働学習を行う道具としての端末の活用
 - 教職員の ICT 研修の充実
- ◆「三条市授業スタンダード」の活用と校内研修とのかかわり
 - 「三条市授業スタンダード」をもとに学びの振り返りの視点を校内研修の一つに位置づける。
 - 「振り返り」の意義を職員で共有し、いかに「振り返り」をするかを研修の柱の一つに据える。研究の柱（焦点）をどこに充てるかを明確にし、研修が年間を通して積み重なり、教職員そして児童が学びの深まりを実感できる計画・運営を推進していく。
- ◆より適切な学習評価の改善（「妥当性」「信頼性」のある評価へ）
 - 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に対して、全職員が共通理解を一層深めるとともに、適正な評価材料を収集する。特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価材料は目的に照らし精選する。（宿題の提出状況や、発言の数だけではない。）
- ◆コミュニティ・スクールの推進
 - 社会に開かれた教育課程の実現に向け、学校運営協議会が核となり、育てたい子ども像の育成を目指し、地域と学校との協働による教育活動を推進する。